

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成21年4月30日(2009.4.30)

【公表番号】特表2008-533988(P2008-533988A)

【公表日】平成20年8月28日(2008.8.28)

【年通号数】公開・登録公報2008-034

【出願番号】特願2008-503027(P2008-503027)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	39/125	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
C 0 7 K	14/085	(2006.01)
C 0 7 K	16/10	(2006.01)
C 1 2 N	7/00	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	A
A 6 1 K	39/125	Z N A
A 6 1 P	35/00	
C 0 7 K	14/085	
C 0 7 K	16/10	
C 1 2 N	7/00	

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月13日(2009.3.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(i) 配列番号：168又は(iii)少なくとも20個のヌクレオチドの長さの配列番号：168の連続する部分と少なくとも75%の配列同一性を有する核酸配列を含む単離核酸。

【請求項2】

(ii) 配列番号：169又は(iv)少なくとも10個のアミノ酸の長さの配列番号：169の連続する部分と少なくとも75%の配列同一性を有するアミノ酸配列を含む単離ポリペプチド。

【請求項3】

配列番号：168と少なくとも95%、90%、85%、80%、75%、70%又は65%の同一性がある配列を含むゲノムを有する、単離セネカバレーウイルス又はその誘導体若しくは類縁体。

【請求項4】

次の特徴：腫瘍細胞における複製能、腫瘍細胞親和性及び正常な細胞における細胞溶解の欠如を含む、請求項3記載のウイルス又はその誘導体若しくは類縁体。

【請求項5】

請求項3若しくは4記載のウイルス又はその誘導体若しくは類縁体の有効量及び薬学的に許容される担体を含む医薬組成物。

【請求項6】

請求項2記載のポリペプチドに、又は請求項3若しくは4記載の単離ウイルス又はその誘導体若しくは類縁体のいずれかのエピトープに特異的に結合する単離抗体。

【請求項7】

少なくとも100個のヌクレオチドの配列番号：168の連続する配列と少なくとも75%の同一性がある配列を含むゲノムを有するウイルスを含有する、癌の治療のための医薬組成物。

【請求項8】

前記ウイルスがピコルナウイルスである、請求項7記載の医薬組成物。

【請求項9】

前記ピコルナウイルスがセネカバレーウィルスである、請求項8記載の医薬組成物。

【請求項10】

前記ピコルナウイルスがセネカバレーウィルス様ピコルナウイルスである、請求項8記載の医薬組成物。

【請求項11】

前記セネカバレーウィルス様ピコルナウイルスが、MN88-36695、NC88-23626、IA89-47552、NJ90-10324、IL92-48963、CA131395、LA1278、IL66289、IL94-9356、MN/GA99-29256、MN99197及びSC363649からなる分離株の群より選択される、請求項10記載の医薬組成物。

【請求項12】

請求項3若しくは4記載のウイルス又はその誘導体若しくは類縁体を含有する、異常増殖性細胞を死滅させるための医薬組成物。

【請求項13】

(a) セネカバレーウィルスゲノムが配列番号：168と少なくとも95%の同一性がある配列を含むセネカバレーウィルスゲノム配列を、試験ウイルスゲノム配列と比較すること；

(b) セネカバレーウィルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドと試験ウイルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドとの間の少なくとも最初のアミノ酸の差を同定すること；

(c) 試験ウイルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドがセネカバレーウィルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドに対して少なくとも1つ少ないアミノ酸の差を有するように、試験ウイルスゲノム配列を突然変異させること；

(d) 突然変異試験ウイルスゲノム配列を腫瘍細胞に形質移入すること；及び

(e) 腫瘍細胞が突然変異試験ウイルスゲノム配列により細胞溶解的に感染しているかを判断すること；

を含む腫瘍溶解ウイルスを作製する方法。

【請求項14】

(a) 少なくとも100個のヌクレオチドの長さの配列番号：168の連続する部分と少なくとも75%の同一性がある核酸配列を含む親配列から作り出される、複数個の核酸配列を含むウイルス突然変異体のライブラリーを作り出すこと；

(b) ウィルス突然変異体のライブラリーを複数の突然変異ウイルスが產生されるよう許容細胞に形質移入すること；

(c) 複数の突然変異ウイルスを単離すること；

(d) 単離した複数の突然変異ウイルスを非許容細胞と共にインキュベートすること；及び

(e) 非許容細胞で產生された突然変異ウイルスを回収し、それによって変化した親和性を有する突然変異ウイルスを作製すること；

を含む変化した細胞型親和性を有する突然変異ウイルスを作製する方法。

【請求項15】

前記ウイルス突然変異体のライブラリーを作り出すことが、

- ( i ) 親配列の一部と配列同一性を有するポリヌクレオチドを提供すること；
- ( i i ) ポリヌクレオチドを突然変異して複数の異なる突然変異ポリヌクレオチド配列を生成すること；及び
- ( i i i ) 複数の突然変異ポリヌクレオチドを( i )でポリヌクレオチドが含有するウイルスのゲノム配列部分以外のウイルスのゲノム配列を有するベクターと連結し、それによってウイルス突然変異体のライプラリーを作り出すこと；  
を含む、請求項1 4 記載の方法。